

令和4年度 京都市民健康づくり推進会議 口腔保健部会 摘録

<開催日時>

令和5年1月26日（木）午後1時30分～午後3時

<開催場所・形式>

オンライン（Zoom）と対面の併用開催

来場の場合は、ハートンホテル京都 1階「伏見」

<構成団体及び出席者>

資料1、資料2のとおり

<摘 録>

1 開会の挨拶 事務局（健康長寿のまち・京都推進室長）

2 出席者紹介等 事務局

3 部会長挨拶 部会長

4 議 事 進行 部会長

【議事1】京都市口腔保健推進実施計画「歯ッピー・スマイル京都」の取組について

報告・説明 事務局

資料3（7～21ページ）に沿って説明

意見聴取等 ○機関・団体等 ●事務局

○ 市民公募委員

関連数値の評価判定について、項目によって同じ5%でも変化の意味合いが異なる。一律、変化率5%を基準に評価せず、項目によって評価区分を決める%を変動させてもいいのではないか。例えば、う歯罹患率とフッ化物歯面塗布の普及状況のように疾患の罹患率と保健行動の普及割合では、健康における重要度が異なると思う。すべての項目を一律に並べて評価するのではなく、評価項目の重要度も加味して総合評価をしてはどうか。単純集計だけでなく、生活習慣などとのクロス集計やむし歯の罹患状況などの経年分析を行ってもよいのではないか。

○ （公社）京都府歯科衛生士会

8020達成者の過去の口腔内の状況などがわかれば、8020達成のために推奨すべき口腔保健行動のヒントがあるのではないか。

○ （一社）京都府歯科医師会

年代が上がれば、歯周病の罹患率や進行状況は悪くなっており、臨床の現場でもしっかりと対応していく必要がある。また、3歳児のう歯罹患率の上昇については、受診時月齢による理由だけか、引き続き注視していく必要がある。フレイル対策など、高齢者施策が中心になっていくところがあるが、やはり子ども、特に小中学生の頃からの対策が、生涯を通じた歯と口の健康、さらには全身の健康には重要。

○ （一社）京都府歯科技工士会

示されたデータはわかりやすかった。補綴物や入れ歯等をする市民は多い。ニーズに合わせて対応していくため、歯科技工士としても、参考にさせていただく。

○ 京都市PTA連絡協議会

幼児の頃までは、行政による全員対象の乳幼児健診があるが、その後、子どもに合う歯科医院選びに困り、結局、むし歯になってから歯科医院を探す、という話を聞くことがある。乳幼児健診の際にでも、定期的に行ける子どもに合う歯科医院の紹介システムのようなものがあればいい。

○ （一社）京都府歯科医師会

歯科医院選びの情報はいろいろあると思うが、やはり親同士のネットワークでの口コミは重要。ただ、人によって相性はあるので、おすすめや評価の高い理由まで確認していただき、ご自身のニーズに合うかどうか確認いただいた方がよい。

● 事務局

データ分析や評価の方法などについては、本市の対応の限界や情報取得が難しいものなどもあるが、いただいたご意見については、今後の参考とさせていただく。

【議事2】国の歯科口腔保健の推進に関する次期基本的事項について

説明 事務局

資料3（21～25ページ）に沿って説明

意見聴取等 ○機関・団体等 ●事務局

○ 市民公募委員

ここ数年、歯科口腔分野に注目が集まっていることはとても良い。市民公募委員になり、市の歯科保健の取組がいいものだと思った。歯が痛くならないとなかなか歯医者に行かない人も多い。継続的にあきらめずに取り組んでいただきたい。

○ 京都府私立中学高等学校連合会

歯と口の健康を守るために、生徒たちの自主性を育むのも大切だが、健診から治療につながる制度・システムがあればよいと思う。

○ 部会長・学識経験者

かつて、歯科医院は痛い時に行くものであったが、今は痛くならないために行くところに変化している。また、学習指導要領に歯周病の記載が追加され、子ども達の歯と口の健康づくりも変わってきている。

【議事3】令和5年度「健康づくり・口腔・食育に関するアンケート(仮)等について

説明 事務局

資料3（26～28ページ）、資料4に沿って説明

意見聴取等 ○機関・団体等 ●事務局

○ （一社）京都府歯科医師会

質問内容としては、非常に丁寧に作られていると思うが、口腔部分だけでなく、

全体をみると、アンケートの内容が重複しているように感じる箇所がある。

● 事務局

御指摘のとおり、事務局としても重複と捉えられる内容があると考えていた。例えば、問 9 では健康づくり全体のなかで「丁寧に歯をみがく」意識などを尋ねており、問 29 では、歯と口の健康づくりのなかで「丁寧に歯をみがく」意識などを尋ねている。類似の質問ではあるが、質問の意図が異なるため、意図的に両者を残した案とした。また、問 21～23 や問 27、28 の質問内容が、問 29 の回答肢に重複する部分がある。本日のご意見を踏まえて、重複部分を点検し検討したい。

○ （一社）京都府歯科医師会

意図や位置づけが異なる質問もあるとは思いますが、設問によって回答に齟齬が出ては集計も状況把握も混乱するので、そうならないように工夫した方がよい。

○ 部会長・学識経験者

アンケートというものは、回答の際に他者と比較できず、結局は回答者の主観で回答するので、同じ回答であっても人によって差はあるし、同じ人に似たような質問をしても回答が異なることもある。そこはアンケートの限界なので、あまり細かい違いにこだわらずに質問を構成した方がよい。その点、問 9 の一方の案のように、アンケートの回答肢としてレベル分けを採用するのは、回答者による裁量が狭まり、良い案だと思う。

○ （公社）京都府歯科衛生士会

問 27・28 については、平成 28 年度に実施したアンケート以降、不採用であった項目が、令和 5 年度では再度採用されたという理解でよいのか？これら市民の保健行動に関わる質問は、歯科衛生士として指導する際にも大変参考になる。

● 事務局

御指摘のとおり。国の次期基本的事項の案から、状況把握が必要と判断し、今回の案では追加した。追加に当たっては、過去との比較ができるように、平成 28 年度アンケートの質問を参考にした。

○ （一社）京都府歯科技工士会

補綴物や入れ歯に関するアンケート項目も検討いただきたい。中年・高齢期になると何かしら補綴物を使っている方が多い。調子がいいか、ちゃんと噛めるかどうか。そういった状況も把握してはどうか。

○ 部会長・学識経験者

全身の健康づくりの質問に、口腔分野の質問が入ることで、アンケートを回答する側にとっても理解しやすいものになっているのではないかと。

● 事務局

本日いただいたご意見を踏まえて、案を点検・修正する。各部会からの御意見を踏まえた案をもって、3 月の健康づくり推進会議に諮り、決定する予定である。

【議事４】国の歯科口腔保健の推進に関する次期基本的事項について

説明 事務局

資料３（２８ページ）に沿って説明

意見交換 ○機関・団体等 ●事務局

○ 市民公募委員

長寿の方から「健康長寿は口から」「自分の歯で食べる喜び」といった話を聞く。歯と口の健康は子どもの頃からの施策が重要。そのためには、あらゆる機会を活用して、保護者の理解を深める取組が大切。特に障害のあるお子さんへの取組を考えていただきたい。

○ （一社）京都府歯科医師会

市民公募委員の御意見を受けて、京都府歯科医師会としても保護者への取組は大切と考える。会としても、教育委員会との連携が重要と考える。文化庁の移転もあり、さらに食文化が注目される。歯科と食の密な連携に取り組みたい。歯の有無に関わらず、口の機能がどんな状態でも、どんな世代の方でも当てはまる施策を考えていただきたい。

○ 市民公募委員

歯と口の健康に関心の少ない人に届けるには、啓発だけでは難しい。制度・システムの構築や、習慣づけができるような内容を考えていただきたい。

○ 部会長・学識経験者

健康格差が様々な分野で課題になっている。誰も取り残さない施策や環境づくりを考えていただきたい。

○ （公社）京都府栄養士会

かたいものが食べられることは、健康の一つの目安。近年では、食事がやわらかいものシフトしてきている。噛む力・食べる力を養うことが重要であり、その面で、口腔と食・栄養分野はマッチすると思う。

○ 京都市小学校長会

学校現場では、保護者への啓発は子どもを通じてのアプローチが多いが、歯と口の健康は家庭環境による差が大きいと感じる。行政区によっても差がみられるので、地域の状況にあわせて啓発方法も少しずつ変えていく必要がある。歯並びもよく話題にあがるが、治療費が基本的に保険適用でないので、家庭の経済格差でますます差が生じやすい。また、歯の本数について、そもそも生えてこない歯のある子も増えてきている。給食等を通じて啓発も行っているが、なかなか難しい。

○ 部会長・学識経験者

家庭の経済格差は、口腔だけでなく全身の健康格差につながる。経済格差は行政や医療関係者の大きな課題である。

5 閉会の挨拶 事務局（保健担当部長）

以上、午後２時５７分閉会